

エベネゼル緊急基金



EBENEZER
OPERATION EXODUS

西方からの アリヤー

機手続



「恐れるな。わたしがあなたとともにいるからだ。

わたしは東からあなたの子孫を来させ、西からあなたを集める。
北に向かっては『引き渡せ』と言い、南に向かって『引き止めるな』と言う。
わたしの息子たちを遠くから来させ、娘たちを地の果てから来させよ。」

イザヤ書 43章5-6節

A Christian organisation helping the Jewish people return to Israel

世代が共に働くこと

国際



ニック・コーツ
国際理事会

「あなたは心を尽くし、いのちを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい。私が今日あなたに命じるこれらのことばを心にとどめなさい。これをあなたの子どもたちによく教え込みなさい。あなたが家で座しているときも道を歩くときも、寝るときも起きるときも、これを彼らに語りなさい。」 申命記 6章5-7節

この基本的な聖句を黙想すると、私の心は何年も前に、私が手渡された小さな茶色の冊子「主に仕える」へと戻っていきます。数ページほどのこの小冊子は、私たちの心、魂、力の焦点はまず主、イスラエルの神でなければならぬと繰り返し強調していました。

神は、私たちがこの愛に満ちた焦点を心に抱き続けることを命じておられます。では、その理由は何でしょうか。もちろん理由は多くありますが、主の限りない恵み深さゆえに、その主な理由の一つは、神ご自身が私たちを祝福したいと願っておられるからだとしり上げたいのです。

「志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。」

イザヤ 26章3節

意図的で、揺るぎない焦点

神の誤りなきみことばを信じる者にとって、この姿勢はいつの時代でもふさわしいものですが、今日、これは私たち自身の健やかさのためだけでなく、故郷エレッツ・イスラエルへ帰還するユダヤの人々を慰め、支援するという主の召しに応えるために、不可欠なものとなっています。

預言者イザヤが「真理は広場でつまずいた」と語ったのは、まさに現代のことを言っているようです。そして今や、私たちに与えられている特権であり責任は、神のみことばの真理を、耳を傾けるすべての人に宣べ伝えることです。

申命記の上記の聖句は、聖書の真理を宣べ伝える出発点は、まず自分自身の家族にあることを明確にしています。それを熱心に、頻繁に、継続的に教えることです。

この戒めを思い巡らすと、ユダヤの人々のアリヤを助けるよう召されている者にとって、「子どもたち」とは血縁だけにとどまらず、主が今後バトンを受け取るよう召しておられるすべての人々—次世代—を指すのだと次第に分かってきます。次世代と語り、励まし、チャレンジすることは明確に聖書の命令であり、私の経験から、それはいくつかの方法で行うことができます。

お祈りください

1. 主が次世代を起こしてくださるよう祈ること。
2. 同じ志を持つ人々同士が関わる機会を促すこと。
3. 奉仕の機会や、集会・カンファレンスで話す機会をつくること。
4. ユダヤの人々に対する神の心と御計画に情熱を持つ人と共に歩み、その人を導くこと。

この記事を書いている中で、主のタイミングに驚かされています。今朝の教会の礼拝で、牧師は各世代を一つずつ(全部で三世代)起立させ、それぞれに励ましつつ挑戦的なことばを語りました(私の世代への言葉は、若い世代のために熱心に祈ることでした)。最後には小グループに分かれ、各世代が別の世代のために祈りました。これはまさに、エベネゼル・ファミリーの世代に対する私の心からの願いです。

私は心から信じています。私たちは、神のアリヤの計画について語る機会がある時には、大胆に、そして意図的に語る必要があります。そのために私は個人的に、アリヤに関する聖書箇所を共有する際に、より強い緊急性をもって語るようなチャレンジを受けています。しばしば私は、1914年のイギリスのポスターを

用語解説

アリヤー(Aliyah):

ユダヤ人が約束の地、イスラエルに帰還することを意味します。):

イスラエルに帰還するユダヤ人

クリタ (Klitah)

吸収を意味し、イスラエルに到着したオリムたちの生活を確立させること。ヘブライ語の学び、就職、住居、学校、IDFへの従事など。



増し加えてくださると私は信じています。主が起こしておられる次世代を「見」、彼らと共に歩み、預言的に彼らに「自分のジャケットを置き」これからの働きのために彼らが二倍の油注ぎを受けるよう祈っていきましょう！

どうか私たちが、ナオミから離れて故郷に戻ったモアブ人のオルパのようではなく、むしろ彼女の世代において忠実で、真の友であり、ダビデ王の曾祖母となったルツ（ヘブル語で「友」）のようでありますように！

「お母様を捨て、別れて帰るように、仕向けないでください。お母様が行かれるところに私も行き、住まれるところに私も住みます。あなたの民は私の民、あなたの神は私の神です。」

ルツ記 1 章 16 節

下：ケイト（手前）、ボランティアのラリー＆ハイディ（左）、そしてポーランドにいる多くのウクライナ人オリム。

示すことがあります。そこでは当時の陸軍大臣キッチナー卿が国民一人ひとりを指差し、以下の明確なメッセージを掲げています。

私がある時は気づかなかったのですが、私にとってその召しは約10年前の預言的な行動を通してもたらされました。その時、国際会議で、イギリスのある支援者が私の肩に自分のジャケットをかけました。それはリレーのバトンが渡されるだけでなく、世代が共に働くことを表すしるしでもありました。

最近「時代のシナジー」という表現を聞きましたが、これはアリヤーと、世代間の一致と相互のつながりに深く響く言葉でした。この意味でのシナジーとは、私たちが共に働くことで、自分一人では決して成し得ないより大きなことを成し遂げることです。エベネゼルに当てはめるなら、これは、私たちより前に祈り続けてきた人々に与えられた約束に同意するという意味でもあります。

私たちが自国の中でも、また国を越えても一致して祈り、働くとき、その一致は、主がアリヤーのために与えておられる約束を解き放つ力を



ポーランドにおけるボランティア

ポーランド



ラリー & ハイディ・ジョーンズ
ボランティア

2017年、私たちはキプロスに住んでいたとき、EOEを開設するチームの一員となるという喜びと特権にあずかりました。これは、私たち自身に与えられていたイザヤ49章22節への召しが実現した瞬間でした。

しかし残念なことに、2022年、家庭の事情により私たちはアメリカへ戻らざるを得ませんでした。同じ年の秋、エルサレムに行き祈りの家の運営を任される道が開かれ、EOEイスラエルチームとの関係も良い方向に発展していきました。

米国でのビザ更新期間を経た後、2023年10月18日にイスラエルへ戻る航空券を購入しました。しかし、10月7日の出来事が起こり、その様子を恐怖のうちに見守ることになりました。私たちの便はキャンセルされました。それから数か月の間、私たちは祈り、希望を持ち、備えながら、多くのオリムが経験してきた落胆や葛藤を身をもって感じていました。

ついに2024年2月、イスラエルに戻ることができました。滞在中、さまざまな働きを手伝い、5月には若い成人向けの「連帯ツアー」を率いました。これはガザからレバノン国境まで仕える働きでした。

その後、ラリーに心臓弁の手術が必要であることが分かり、私たちは再びアメリカに戻りました。

回復後、再びイスラエルに戻る準備をしていましたが、航空券を購入する前に、イランとの戦争が始まってしまいました。しかし、その

失望は長くは続きませんでした。ヨハネスから電話があり、EOEポーランドチームの助けに来てほしいと言われたのです。祈り求めた結果、心の中に「はい」という平安が与えられ、航空券を購入し、2週間後に現地へ向かいました。

私たちの働きは、世界中のエベネゼルの働きと同じく、毎日の祈りから始まります。ここ、ポーランド・ウクライナ国境沿いの家では、イスラエルへ向かうユダヤ人家族を迎えます。ベッドの準備、食事づくり、掃除、洗濯など、实际的でありながら預言的な働きです。

ウクライナからの出国は列車のみです。そのため、私たちはオリムを国境で迎え、ワルシャワの空港まで長時間のドライブでお連れします。早朝便の場合は、ホテルでの一泊が必要になることもあります。

最近、私たちはドニプロから来た4人家族と、その猫とジャーマンシェパードを運びました。交通渋滞や、出発直前の犬用クレートの手配などがありましたが、神様の助けによってすべてが整えられました。

また、ワルシャワ滞在中には、アリヤーの書類を待っているユダヤ人家族を訪問し、励まし、必要を見極め、食料品を買い、共に祈る働きも行っています。

祈りをありがとうございます！神様の助けによって、さまざまな障害は乗り越えられています。神の民が神の地へ帰るこの働きにおいて、これからも私たちと共に歩んでください。

上：イスラエル行きのオリムとともに空港にて。
下：基地およびワルシャワで、ユダヤ人の方々と共にいるラリーとハイディ。



アウトリーチが実を結ぶ

ヨーロッパの一部では、「もうこの戦争には疲れた」という声をよく耳にします。しかし、では私たち——毎日ミサイルやドローン攻撃の脅威の下で生活している者たちはどうでしょうか？スームィ、ハルキウ、ヘルソンのような都市に住む人々はどうでしょうか？

これらの地域の住民は、歩いて市場へ向かう歩行者や、自転車通勤する人でさえ狙われる、容赦ない攻撃にさらされています。

私は20年ほど住んでいた故郷ヘルソンを訪れましたが、ほとんど別の街のようでした。暖かい日曜の夕方だというのに、街はほとんど無人でした。毎日の攻撃で多くの人が避難せざるを得なかったのです。かつて30万人の都市だったヘルソンには、今では約6万7千人しか残っておらず、その多くが高齢者で、このままでは完全に見捨てられる危険さえあります。

兵士たちはドローンで対人地雷「ペタル（花びら）」を散布し、民間人にとって致命的な危険を生み出しています。最近では、民間車両や食料を運ぶトラックへのドローン攻撃も始まりました。多くの店が閉まり、検問所が至る所にあり、さらに強制徴兵の恐れが常につきまとう——これが前線都市の過酷な現実です。

このような状況の中で、食料パックは単なる親切の行いではありません。ユダヤ人家族にとって、命を支える重要な助けなのです。自分は忘れられたと思っていた高齢の男性や女性たちは、「イスラエルの神はあなたを見捨てて

いない」と伝えられ、深く心を動かされていました。

ウクライナのユダヤ人の方々に食料を届ける機会が与えられていることを感謝しています。それによって神のことは分かち合う扉も開かれます。こうした“釣り”の働きを通して、より多くのユダヤ人家族をイスラエルという故郷へ戻る助けができるのです。

最近、私はハルキウからの5人家族と、ポルタヴァ地方からの2人家族を助ける特権が与えられました。私たちのチームは以前、ハルキウで心臓発作と癌の治療から回復中の高齢男性オレクサンドルさんと、その妻ラリーサさんを訪問し、食料パックを届け、アリエーについて話しました。その後ラリーサさんから連絡があり、ビザ申請とイスラエル行きの飛行機のため、キシナウへ行く手助けを求められました。私たちは彼ら、そして息子スタスさんの家族、さらにクレメンチュークからの夫婦を連れて、ヴィーンニツァへ向かいました。

このアウトリーチがイスラエルの神のために実を結ぶのを見ることができ、どれほど嬉しかったことでしょう。

どうかオレクサンドルさんの癒しのため、そしてこれらの家族が先祖の地にしっかりと根を下ろし、主を知るようになるために祈り続けてください

ウクライナ



ヴァディム
ナショナルコーディネーター

上：ハルキウでのフィッシング（アウトリーチ）にて、ケイトとヤンヤ（左）

左下：ハルキウでのフィッシング

右下：ヴァディム（右）がヴィーンニツァへオリムを搬送



避難の場所

キプロス



ダニエル & アイリーン・イオアンニデス
国家コーディネーター・祈りの
コーディネーター



このQRコードをスキャンして、
アリヤー・ニュース第82話「イスラエルへの航海」(アリ・アブラモウィッツ、ジャック & デビー・ホルフォード出演)をご覧ください。

下部写真：
1941年——キプロス・ファマ
グスタで、イスラエル行きの
乗船前に並ぶユダヤ人難民。

古代から現代に至るまで、キプロス人とユダヤ人は長く豊かな交流の歴史を共有してきました。時には交易において、またある時には安全を求める難民として、互に関わり合ってきました。地中海を隔て144海里的距離にありながら、この二つの国は歴史の出来事によってつながり続けてきました。

紀元前722年以来、キプロスには断続的にユダヤ人共同体が存在し、避難の地となってきました。紀元30～36年頃には、ステパノの石打ちの後、迫害されたユダヤ人信者たちが避難する場所としてキプロスが用いられました(使徒11:19)。

その後、1940年代後半には、ホロコーストの生存者たちが島の英国収容所に収容され、キプロス人とユダヤ人の間に特別な絆が築かれました。地元のキプロス人は、拘留されていた人々を助けるためにさまざまな努力を重ねました。

その召しを受け継ぐかのように、2024年6月のイスラエル／イラン戦争の12日間、多くのフライトがキプロスへ迂回したため、島には帰国できずに足止めされた何千人ものイスラエル人旅行者が滞在しました。彼らが飛行機や船で安全にイスラエルへ戻ることができるまで、キプロス側は受け入れを続けました。

トロードス山脈にあるホテルのオーナーは、帰国できるようになるまでイスラエル人に無償で宿泊を提供しました。エベネゼル・キプロスのチームメンバーであるジャック & デビー・ホル

フォード夫妻は、自身のヨットで困窮していたイスラエル人に対し、二度の無料航行を提供しました。

イスラエルもまた、対空防衛システム「アイアンドーム」を含む軍事的専門知識をキプロスに提供してきました。独自の十分な防衛能力を持たないキプロスにとって、これは非常に重要な助けとなっています。私たちは、両国の間に続く成長する友情のために主に感謝しています。

しかしながら、キプロス政府は残念なことに「二国家解決案」を支持しており、またイスラエルの入植地住宅建設に反対しています。加えて、地元メディアはガザの状況について真実全体を伝えておらず、そのため島のユダヤ人共同体に対してより敵対的な雰囲気が生じてしまっています。

祈りましょう：

- ・ キプロスが良き隣人であり続け、アリヤーのための安全な避難所であり続けるように。(ゼカリヤ8:16 新改訳2017)
- ・ キプロス政府が悔い改め、イスラエルに対する「二国家解決案」支持政策を転換するように。



国際理事会のために祈ってください

私はアメリカ出身のゲイリー・カーです 

妻オードリーとは44年間の結婚生活を送り、4人の既婚の子どもたちがいます。彼らは私たちに9人の孫を「授けて」くれました。子どもたち全員がイエシュアと共に歩んでいることを感謝しています。

私はクリスチ안의調査ジャーナリストで、妻と共に30年以上フルタイムのミニストリーに携わってきました。2013年に出エジプト作戦USAの理事会に招かれ、その後まもなくエベネゼル・出エジプト作戦国際理事会にも加わりました。

私たちは、ユダヤ人の最大のアリヤ(移住)はこれから訪れると信じています——現在600万人以上の神に選ばれた民が住むアメリカからです。

- ∧ どうかアメリカのためにお祈りください:
- ∧ ・ 主がユダヤ人とアリヤに対する御心を受け取る、終末の戦士たちをさらに起こして下さるように。
- ∧ ・ 現在の OEUSA スタッフが、目の前にある巨大な働きに押しつぶされることがないように。
- ∧ ・ 私たちが主に完全に従うために、あらゆるものを犠牲にする覚悟をもてるように。
- ∧

私はイタリア出身の
ジャン・ルカ・モロッティです。 

国際理事会メンバーとして、また EOE イスラエル理事会の議長として仕えています。セキュリティ・マネジメントの学位と、ヘブライ遺産学の学士号を持ち、Restoration Fellowship International の按手を受けたミニスターでもあります。

私は、コモンウェルス・オブ・イスラエル協会(私は同協会の理事です)と共に2冊の本を執筆しました。『聖なる巡礼への召し:ユダの家の集めと救い』『イスラエルのコモンウェルス — 神の永遠のご計画の啓示』

私の情熱は、教会が終末の時代におけるイスラエルに対する神のご計画を理解し、また残された者たちがこの時代に霊的権威を得るために整えられ強められることです。

これから数カ月、世界は大きな課題に直面し、あらゆる面で非常に激しい時期となるでしょう。しかし、私たちは違う者として、神に召され、この地に踏みとどまり、勝利を得る者とされています。

- ∧ どうか EOE イタリアのためにお祈りください:
- ∧ ・ ローマのチームが、再びユダヤ機関(Jewish Agency)との働きを再開できる機会が与えられるように。

国際



ゲイリー・カー & ジャン・ルカ・モロッティ
国際理事会メンバー

Special Israel Tour

SEE BIBLICAL PROPHECY
BEING FULFILLED

19-27 January 2026

50%
DISCOUNT FOR
PASTORS

→ ebenezer-oe.org/events

New children's stories available!
www.ebenezer-oe.org/children



On YouTube & Telegram search:
Ebenezer Operation Exodus

安全と希望の場所

イスラエル



ジェレミー・スミス
国家コーディネーター

お祈りください:

・ハイファ、アシュドド、エルサレムの各チームのために。

・彼らと共に働くボランティアが十分に与えられるように。

上:ハイファ・ハウスでのジェレミーとオリム

下:ボランティアとオリム

エベネゼル・出エジプト作戦は、ユダヤ人に仕えるという召しに堅く立ち続けています。不確実な状況の中、新しいオリム(移住者)にとって最も大きな必要のひとつは、「安全で温かく迎え入れられる家」と呼べる場所です。

この一年、ハイファとアシュドドにある二つの家は、単なる宿泊場所以上の存在となりました。そこでは、コミュニティが生まれ、励ましが与えられ、神の真実さが確かに示されてきました。

それぞれの移住者は、勇気と回復力の物語を抱えており、エベネゼルはその旅路を共にできることを特権と感じています。

ハイファ・ハウスでは、新しい到着者たちはしばしば長旅で疲れ、馴染みあるすべてを残してきた混乱の中にあります。ここでは、彼らは温かく迎えられ、休み、深呼吸し、この地での新しい生活に適応するための時間が与えられます。家の管理人やボランティアたちは、実際の助けを提供しつつ、耳を傾け、彼らの「新しい始まり」の最初の大切な日々をともに歩みます。

アシュドドでは、最新の家である「ベイト・ヨナ」が2025年1月1日にオープンしました。すでに多くのオリムがその扉をくぐっています。妊婦の方々から反ユダヤ主義の攻撃で傷ついた人々まで、多くの人がベイト・ヨナで新たな生活を始める安全な場所を見いだしました。この家はすぐに、安定と希望の避難所となりました。

そのほか多くの働きの中で、アシュドドではすべての寝室にエアコンが設置され、安全のための

手すりも追加され、車椅子使用者のためのバリアフリーの専用ルームも整備されました。ハイファでは、新しい防護壁が住民を守っています。これらの働きは、皆さまの祈りと忠実なご献金なしには決して成し得なかったことです。本当にありがとうございます。

2026年を見据えると、このような家の必要性はさらに増していくでしょう。アリヤーへの召しは続いており、それに伴い、新しい移住者たちが無事に到着し、生活基盤を築くことのできる、安全でよく整えられた家を提供するという課題も続きます。

北部でのヘズボラとの戦争の際に避難していたほとんどの家族が、今は自宅へ戻ることができたことを感謝しています。その期間、エルサレム市長室と協力できたことは大きな恵みであり、今後も彼らの町を訪れていけることを願っています。



Operation Exodus
Ebenezer Operation Exodus
International & UK Office
PO Box 9103, Bournemouth
BH1 9DA, UK
+44 (0) 1202 294455
enquiries@ebenezer-ef.org
www.operation-exodus.org



Operation Exodus USA
PO Box 568 Lancaster NY 14086
Phone: 716 681 6300
info@ebenezerusa.org
www.ebenezerusa.org

Operation Exodus



エベネゼル緊急

〒005-0006札幌市南区澄川6条3丁目
2-4-302(岡田方)

Tel:011-813-3558(岡田)

paginamaestro@hotmail.com

http://eefj.org

郵便振替(名称) エベネゼル緊急基金
(番号)02710-0-55842

Operation Exodus(出エジプト作戦)はエベネゼル緊急基金の実際的な働きの名称です。すべての国々からユダヤ人がイスラエルの地に帰還するように支援しています。彼らが約束の地に帰還するという神の計画と目的を宣言するべく1991年に3人の人から始まりました。

イギリス本部、アメリカ、スイス、ドイツを中心に国際的活動を展開し、さらにイスラエルを含めた25カ国に各国代表者と各国支部を配置しています。そして、旧ソ連諸国には実際的な働きのために、数多くの活動の拠点を設置しています。日本支部もその働きの一部です。